
神がない世界・・・

グリム

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

神がいない世界・・・

【Nコード】

N3043T

【作者名】

グリム

【あらすじ】

3000年8月1日午後4時人が急に消えてしまった。それも、90億もなぜ消えてしまったか不明のまま20年の月日が流れた。

そして悲劇がまた始まる。

消えていく人たち

3000年8月1日午後4時、世界から人が消えた。

昨日までは、人口100億人なのに次の日には10億人に減っていた・・・

なぜここまで減ったかは、不明。残った人たちはこう言う。

「急に視界が光に包まれて、気が付いたら周りの人たちがいなくなっていた。」

俺は、初めてそれを聞いた時すごく怖かった。

そして、今は3020年8月1日。

午後3時だ。

テレビでは、もうカウントダウンを始めている。

みんなも神様に祈っている。俺もそのうちの一人だ。

周りでは、祈らない奴もいるけど俺は祈っている。

「もうあんなことが起きませんように・・・」

でも、悲劇は起きた・・・。

目を閉じていたはずなのに、急に視界が光に包まれて、気を失った。そして、気が付いたら周りの人がいなくなっていた・・・。

みんなどっかいったのかなと思いたかったけど。

いくら人を探しても誰もいない。

遠くの友人にも電話をかけたけど出ない・・・

知っている限り電話をかけたらやと一人だけ出た。

でも、その電話に出た人はこう言った。

「助けてくれ」

その一言だけ言って電話が切れた。

とりあえず、そいつの家に向かった。

けがしてるかもしれないから救急箱を持って走った。

走って約30分家に着いた。

鍵が開いていたので中に入ったけど誰もいなかった。

「消えたのか」そう思ったら地下室があることを思い出した。
地下に入ったら人がいた。2人もいた。嬉しくて涙があふれ出た。
でも、パンという音が鳴り響いた。
そして、立っていた一人が倒れた。
最初は何かわからなかったけど、すぐに何かわかった。人が死んだ
ということが・・・。

俺は殺した相手が憎くてしょうがなかった。

俺は持っていた救急箱をおもいきり投げつけた。

そしたら、頭に当たって倒れた。

そして、そいつの頭周辺に赤い色の水が流れた。

我に返って、そいつの側に行ったけど、死んでいた。

そして、俺は人を殺した・・・。

俺は、悟ったこの世に神なんていないことを・・・。

化け物（前書き）

3020年 8月1日

人を殺した。

そして、また光が俺の視界を包んだ・・・

化け物

3020年8月1日

俺は夢を見ているのか？

人を殺した。

なぜ殺したのだろう。

たしか、電話に出た人が「助けてくれ」と言った。

だから、俺は怪我をしているのかと思って救急箱を持ってそいつの家に行った。

なのに、なぜ俺はその救急箱でそいつを殺したんだ？

わからないわからないわからないわからないわからない。

とりあえず、落ち着こうそして状況の整理だ。

30分位したらようやく落ち着いてきた。

とにかく俺が殺したのはだれか確かめようと思った。

そのとき、また光が急に襲いかかってきた。

そしてまた、俺は気を失った・・・。

3020年7月1日

俺は目を覚まして体を起こした。

「また生きたのか俺？」

そう言った瞬間声が聞こえてきた。

「大丈夫ですか？」

俺は耳を疑った。

まだ消えてない人がいるんだと思ったから。

そして振り向いたら。

人ではなかった・・・。

「え・・・？」

人ではない別の何か口と目などは普通だが、手が4本あり、内2本は鋭利のようになっており、一つには、人が刺さっていた。

警察官のようだが服は血まみれになっていた。

俺は状況の整理がつかないまま、近くにあった拳銃を握って走って逃げた。

「なんなんだ、あの化け物？」

逃げたとにかく逃げた。

そして一つの疑問が俺の頭の中によぎった。

「たしか、俺地下にいたよな？」

そうだ、たしかに俺は地下にいた。

なのに、なぜ俺は外を走っているんだ？

そうこう悩んでいる内に化け物に追い付かれた。

俺はとっさに右手に持っていた拳銃を化け物に向けて放った。

「パアアン」という乾いた銃声が鳴り響いた。

見事に化け物の頭に当たった。

でも、化け物はこっちに向かってくる。

「どうすればいいんだ？」

さらに何発か撃とうとすると・・・

終わり・・・（前書き）

急に光に包まれたらそこには化け物が、俺の目の前にいた・・・。

終わり・・・

化け物が倒れた。

やばかったあともうちよつとで刺される所だった。

「大丈夫ですか？」

！！？

俺は驚きを隠せなかった。

なぜなら目の前に、倒れた化け物が起き上がったから・・・。
やばい逃げないと・・・。

と思った時には手遅れだった。

体が急に吹っ飛んだ。

そのあとに何かが俺の体に刺さった。

何かわからない。

でも不思議と痛くない。

体が宙に浮いている。

なんだか笑えてきた。

だつてなあ。

今、ようやく俺は何が起こったか分かったんだから。

俺の体に刺さっているのは、槍しかも5、6本ほど。

あの化け物に、俺は吹っ飛ばされた。

そのあとに、刺さったんだ。

そういえば、あの化け物は同じ槍に刺されて動いていない。

多分あの化け物、俺をかばって刺されたんだと思う。

もしかしたら、あいついいやつだったのかな？

今となったらわからないけど。

でも、わからないことがあるなんで俺を助けたのが。

わからない。

もう、どうしようもないだんだん意識が薄れていく。

そつえば、俺誰だっけ？

ずっと、俺って言っているけど誰だっけ？

また、始まり

俺は生まれた頃から・・・人間だ

ただし人間だけど、神様の生まれだ・・・

しかも、両親が女神と貧乏神・・・家系図には地獄神や土地神などで2000年ぐらい戻ると人間が一人だけいた・・・

2000年前だからもう人間血がほとんどないはずなのに・・・俺は純粋な人間だ・・・

ただ・・・人間でも神の力を使える。中途半端な力じゃなく、完全な状態で・・・

普通の神でも完全な神の力を使えるものは3000年に一人の割合だそのせいで親族からはおかしな目で見られたりしている

そして・・・今日から神としての仕事をしなければならぬ神の仕事は簡単、神社に来た者の願いをかなえるだけ・・・

しかし、ルールもある

もしその願いがほかの者に不幸を与えるなら願いをかなえてはいけない・・・

そして、誰の不幸を与えないなら必ずそれをかなえなければいけない・・・

この二つのルールがある・・・

もし、このルールを無視したら神として生きていけなくなる

俺は別にいいのだが、両親がまたおかしな目で見られるのはできるだけ避けたい・・・

ただでさえ、父が貧乏神で母の方の親族から変な目で見られているのに、息子がこれだから・・・

だから、俺は今日から神の仕事を頑張つてやろうと思う・・・だが、記念すべき最初の願いに来たものの願いが・・・俺を人間界に引きずりこんだ・・・

【1月1日】

（ここか・・・今日から俺が願いをかなえるための場所は・・・）
そこは、人口が8だけの・・・もう村とも言えない場所だった・・・
しかも、住んでいるのがお年寄り5人、成人男子1人、成人女性1人、そして女の子1人

（これは、村っていうよりちよつとでかい家族のじゃないのか？）
俺はそう思った・・・そして、なぜこんなところに派遣されたかがわからない

この村は、3キロほど歩いたところに町がある・・・学校や生活のための物もある

普通ならそう言うところに行くはずだが・・・俺はここに派遣された神は基本的に移動しまくるので（土地神以外）留守のことが多い・

だから、こんな秘境の場所に行かされるのは二つほどしか可能性がない

一つは、ほかの神からの嫌がらせ

二つは、人間からの呼び出し・・・どう考えても一つ目の可能性が高い・・・

（はあ、またか・・・まあ、最初だし100年くらいで移動できるだろ・・・）

俺はそう思って神社に行った・・・そこには、村の女の子がいた・

・

「神様！お願い！！おばあちゃんを・・・不治の病にかかっているおばあちゃんを助けて！！」

そう・・・願っている・・・

多分おばあちゃんは病気で助からないのだろう・・・

神である俺でなら、そのくらいの病気は治すことができる・・・
だが・・・治してはいけない

なぜなら、不治の病は・・・神がそのものに与える天罰・・・
ルールは破っていないが、神が与えた天罰はほかの神が治してはいけない・・・

「お願い・・・神様・・・」

・・・見捨てるしかできないのか？

俺は・・・神の仕事を・・・した

「そう泣くな、神様の俺がなおしてやるよ」

「へ？」

女の子は驚いている・・・さっきまでいなかったのに目の前に急に現れたからだ

「俺が治してやるから、連れていけ」

「うん！！」

女の子はものすごい笑顔で俺を連れて行った

「ツゴホ！！・ガハ！！ゴホ！！」

・・・これは、天罰だな・・・

もしかしたら、人間界の治してもいい病気かなと思ったが・・・

・これは天罰・・・

しかも、大罪を犯した者にしか与えられない・・・

この人にやさしそうなおばあちゃんが何をしたのだろう？

俺は神の力を使い、この人の人生を見た・・・

そこには、中のいいおじいちゃんと子供がいる・・・

おじいちゃんは今すぐ死ぬ・・・それを知った子供が・・・死んでほしくないのだろう

「これは、不死の薬だから死なないよ？おじいちゃん」

「ありがとい・・・」

そう言っておじいちゃんは薬を飲んだ・・・

（・・・わかった、おばあちゃんが犯したのは・・・嘘・・・しかも、神の中で一番タブーの）

普通の嘘なら関係はない・・・だが、「死にかけの人」に「不治の薬」

・・・

混ざり合っではいけないものが混ざってしまった・・・ただ、おじいちゃんに死んでほしくないために

俺は、胸の前で手をたたいた・・・

パン

乾いた音とともに周りに光が包み込み、幻想的になった
そして、その光はおばあちゃんを包み込んだ・・・

「ん・・・え？」

元気になったようだ・・・

俺はそう安心したそして、俺には黒い光が包み込んだ

「ありがとうね！！かみさ・・・ま？」

女の子が振り向いた時には、もう俺の姿はなかった

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3043t/>

神がない世界・・・

2011年10月12日18時53分発行